

秋田県理学療法士会ニュース



第175号
2017年3月15日発行

発行：公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長：菅原 慶勇 編集：加賀屋勇気 印刷：(株)秋田情報プリント
事務局：〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40
TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org
ホームページ <http://www.ptakita.org>



3

2017
Mar.
Apr.

4



僕らの職場紹介します！ 事務局報告 理事会議事録
部長便り 会長の動き マイブーム



第22回秋田県理学療法士学会開催



新年度 専門領域研究班始動



第22回秋田県理学療法士学会



がん医療の現状を考える

—地域包括ケアの時代を見据えて—

2017年3月5日、第22回秋田県理学療法士学会が、秋田大学にて開催されました。市立横手病院の小田嶋尚人先生が学会長を務め、「がん医療の現状を考える—地域包括ケアの時代を見据えて—」というテーマで、特別講演2題、シンポジウム、そして一般演題8題が行われました。秋田は、19年連続がん死亡率が全国でワースト1位の県です。そこで働く我々理学療法士にとって、がん医療、がんのリハビリテーションは、非常に関心の高いテーマということもあり、会場には147名もの参加者が集まりました。成功裏に終わった本学会の様子を、写真とともに振り返ります。



小田嶋学会長(左)と鈴木準備委員長(右)



特別講演1 「がんって何だろう？」

講師：南谷 佳弘 先生 (秋田大学大学院医学系研究科)

—がんになっても、やりたいことを諦めない—

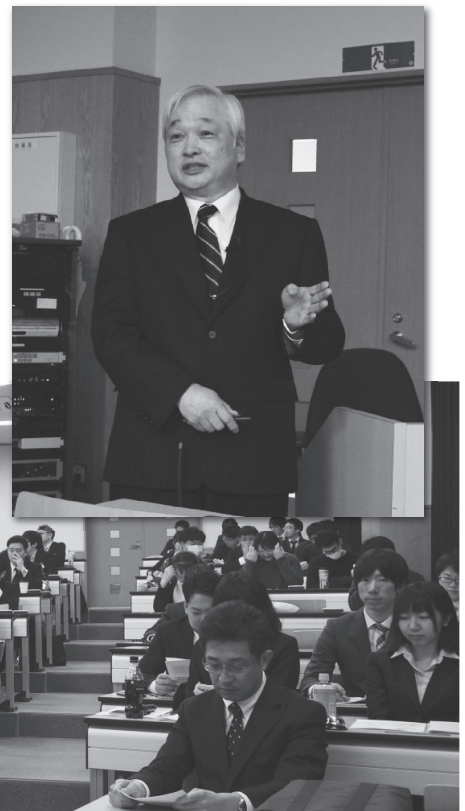
特別講演1では、がん医療の包括ケアをリードする秋田大学の南谷佳弘先生が、がんの基本的な知識について大変分かりやすくご教授くださいました。がんとは、遺伝子にできた傷が原因となり、それをもとに作られた細胞のことで、本来は修復できるものが、加齢とともに修復が効きにくくなること。手術の進歩に伴い、低侵襲での治療が可能となってきたこと。従来のがん剤と、近年注目される分子標的薬との違いといった、がん医療のトピックについてお話くださいました。さらに、南谷先生が毎年、がん患者さんとともに行っている「がんサバイバー登山」についてもご紹介いただきました。外科医として治療にあたる一方で、患者に寄り添い、患者の想いをとても大事にされているということが、先生の言葉の端々から伝わったご講演でした。

特別講演2 「緩和ケアとリハビリテーション」

講師：丹羽 誠 先生 (市立横手病院)

—がんになっても希望とあたりまえの生活を—

特別講演2では、市立横手病院の丹羽誠院長より「緩和ケアとリハビリテーションリハビリ専門職に期待する」というタイトルでご講演いただきました。緩和ケアの意味や、治療の選択肢、在宅医療の現状の説明にとどまらず、がんとともに生きる患者さんの“想い”について、非常に多くのことをご教授くださいました。スピリチュアルな痛み苦しむがん患者に対して、医療スタッフとして、どう接し、どう寄り添うか。そして、より良い人生の最終段階を迎えるために、死をどう捉えるか。丹羽先生のお話を伺ううちに、私たち自身が、患者の「死」の問題から逃げずとも考えていくことが必要なのだと感じました。「PTは少なくとも20分は患者のそばにいて話ができる」と先生がおっしゃったように、ADLの維持・向上だけでなく、がん患者のQOLのために我々ができることは、まだまだたくさんあると気づかせていただきました。



シンポジウム



在宅がん療養者の現状と支援・地域包括ケア

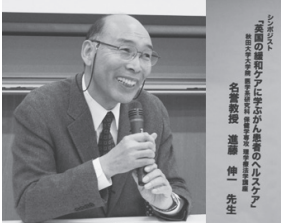
講師：中村 順子 先生（秋田大学大学院医学系研究科）

中村先生は、地域包括ケアシステムにおける在宅医療の位置づけや、在宅がん療養者の現状や訪問看護について講演して下さいました。
在宅医療の必要性や訪問看護ではどのような支援が必要か等を講演して下さい、施設ホスピスや在宅、病院間の連携の重要性を改めて感じさせられました。

秋田県における小児がんの現状

講師：平山 雅士 先生（中通総合病院）

平山先生は、小児白血病を中心に、小児がんの現状について講演して下さいました。より良い治療に結び付けていくために、多職種の連携は不可欠であるということを学びました。小児がんに触れる機会が少ない先生方にとって大変勉強になる場となったのではないかと思います。

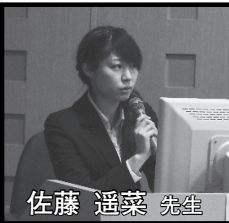


英国のデイ緩和ケアに学ぶがん患者のヘルスケア

講師：進藤 伸一 先生（元秋田大学医学部保健学科）

進藤先生は、英国の緩和ケア・リハビリテーションについて紹介して下さい、今後秋田県で緩和ケアに取り組む場合にはどのようなことが必要かについて講演して下さいました。がん患者にとって緩和ケアは必須であり、地域包括ケアシステムの中へ位置づけること、地域間での連携が必要であることを実感しました。

一般演題



1. 理学療法士による認知症へのグループ訓練の効果

中通リハビリテーション病院

佐藤 遥菜 先生

2. 脳卒中後の職場復帰について
— 復職に必要な要素についての一考察 —

中通リハビリテーション病院

岡本 佳大 先生



3. 秋田県リハビリテーション専門職協議会における大仙・仙北地区の動きについて

大曲中通病院

鈴木 和也 先生

4. 平成28年度秋田県における理学療法士の実態調査

中通リハビリテーション病院

工藤 郁美 先生



5. 膝人工関節全置換術の術式の違いによる膝屈曲可動域の調査

市立横手病院

小田嶋 鷹哉 先生

6. 最大1歩幅の測定動作での関節角度分析
— 2つの長さ条件での比較 —
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

柴田 千里 先生



7. 重炭酸泉浴（薬用ホットタブ重炭酸湯）の入眠・熟眠効果

秋田大学大学院医学系研究科

上村 佐知子 先生

8. 秋田県における高校野球メディカルサポート活動報告
— 大会時期の違いによる対応内容の差異についての検討 —

福原 隆志 先生



新年度新機軸 専門領域研究班始動！



神経系
福原 隆志

老年期
岩倉 正浩

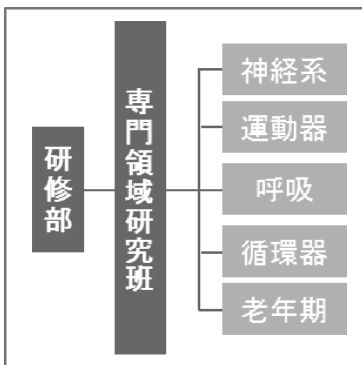
運動器
渡邊 基起

研究班班長
山崎 貞一郎

呼吸
川越 厚良

循環器
加賀屋 勇氣

来月から県士会で新たに発足する専門領域研究班。5つの専門領域で勉強会や研究支援など様々な活動が進められていく予定です。今回は、各領域の代表となる先生方にお話をうかがいました。



この4月から、研修部に専門領域研究班が新設されます。この研究班の目的は、職能団体である私たち「理学療法士の礎である学術活動を活発に推進することで臨床の基礎を固め、共に発展していくこと」です。1人職場や身近に相談できる同僚がいない方をはじめ、臨床で悩んでいる症例の検討、各疾患のトピックス、研究活動、学会の予演会など幅広く学術面でサポートする場を提供します。基本的に学術活動は自己研鑽が主体ですが、皆で様々なアイデアを出し合い、効果的に進める場にしたいと考えています。

専門領域研究班は、神経系・運動器・呼吸・循環器・老年期の5つの分野でスタートします。言うまでもなくこれらの研究班は、会員の皆さまの熱意で成熟していきます。是非とも積極的にご参加いただき、盛り上げてくれるようお願いいたします。

秋田県理学療法士会 副会長
島山和利

〈神経系理学療法研究会〉

「温故知新」～過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解をひらくこと～中国の思想家である孔子の言葉をまとめた「論語」に書かれている、しばしば目にする機会の多い四字熟語です。

神経疾患に対するリハビリテーションの歴史は古く、諸先輩方の努力や経験のもと種々のアプローチ方法が構築、実践されてきました。一方で近年の神経科学の発展は目覚ましく、「脳の可塑性」をキーワードとし、これまでの治療方法の効果検証及びより効果的なリハビリテーションの再構築は加速度的に進んでおり、まさしく「温故知新」の状況にあると言えます。

秋田県は歴史的にみても全国トップクラスの脳卒中発生率を維持しており、それゆえ秋田県の理学療法士にとって神経系分野は非常に身近な分野の一つともいえます。ぜひ秋田県から神経系理学療法ゴールドスタンダードを世界に向けて提示できるように、皆で頑張っていきましょう！！

歴史を受け継ぎ
未来を切り開く



中通リハビリ
テーション病院
福原 隆志

〈運動器理学療法研究会〉

運動器は発展し続ける

腰痛や膝痛など運動器疾患は毎日の診療で必ずと言って良いほど、関わる機会があります。毎日関わる疾患だからこそ、今一度自分の診療が間違っていないか考える機会を設けてみませんか？運動器理学療法研究会では、1) 症例検討会、2) 医師・班員による講義、3) 学会発表や論文作成の支援を行う予定です。症例検討会では、グループディスカッションを通してより良い治療方針を考える能力を育てていきたいと考えています。また、医師や班員による講義を通して正しい知識を身につけていくことも重要であると考えています。さらに、学会発表や論文作成の支援では、方法論の相談や予演会、査読など多岐に渡って支援する予定です。一人職場で相談する環境がない方や少しでも運動器疾患でお悩みの方など、ぜひ共に学びましょう。第1回の研究会は2017年4月22日15時～17時（参加費500円）の予定です。参加希望の方はご連絡ください（連絡先は次ページに掲載）。



秋田大学医学部附属病院
渡邊 基起

〈循環器理学療法研究会〉

循環器理学療法をスタンダードに

秋田ではまだ実施施設数が少ない心臓リハビリテーションですが、一方で、循環器疾患を抱えた患者さんはたくさんいらっしゃいます。心不全、狭心症、不整脈・・・日常臨床で難渋したという経験がおありの方も多いのではないでしょうか。更なる高齢化の進む秋田において、循環器リスクを考慮した理学療法は、運動療法を専門とする私たちにとって必須となります。当研究会では、循環器理学療法の基本から応用まで幅広くカバーできる勉強会、症例ディスカッション、学会に向けての予演会、さらには心リハ指導士の試験対策講座まで多岐にわたる活動をして参ります。また、これから心リハを始める施設に対しては、心リハ開設に向けてのバックアップもしていく予定です。

循環器疾患を有する患者さんに、より安全で、より質の高い理学療法介入を行っていくために、ともに学んでいきましょう。今こそ秋田県に循環器理学療法の輪を広げていきましょう。



秋田県立脳血管研究センター
加賀屋 勇氣

〈呼吸理学療法研究会〉

患者さんを呼吸から笑顔に

みなさん、こんにちは！呼吸グループ長の川越厚良と申します。本グループでは呼吸リハ・呼吸理学療法をこれから学びたい先生から、既に精通されている先生まで幅広く参加できるような活動に取り組んでいきたいと思っています。具体的には臨床現場に即した内容の症例報告や勉強会を中心に行っていき、臨床で感じる疑問の解決、または介入法の提案といった臨床に直結できる活動に力を入れたいと思っています。また学会の予演会を通じて、研究活動の助言・後押しができる場を設定し、秋田の呼吸分野を更に発展させていきたいと思っています。日常の診療において、呼吸器疾患の有無に関わらず、誤嚥性肺炎といった呼吸器の問題を抱えている患者さんは多く見受けられることと思います。本グループの活動を通じて、一人でも多くの方が日常の診療における呼吸の問題を解決できるようになればと思います。呼吸の分野に少しでもご興味あれば是非ご参加いただき、知識を共有しながら、一緒に学んでいきましょう。



市立秋田総合病院
川越 厚良

〈老年期理学療法研究会〉

良質な理学療法を高齢者へ

老年期理学療法の知識は疾患を問わず、高齢者に対する理学療法を行うための基礎となります。日本で最も速く高齢化が進む秋田県で、日本一質の良い老年期理学療法を提供することができる環境を、一緒に築き上げていきませんか？

秋田県老年期理学療法研究会では、サルコペニアやフレイル、軽度認知機能障害など老年期理学療法に関連する領域を中心に勉強会、研究事業を行う予定であります。これらの活動を通して、高齢化に伴う諸問題を包括的に捉える視点を獲得することを目指します。

また、本勉強会は、他の病院・施設の方との交流の場となることも期待しております。研究事業では、各施設、または個人の研究支援を行う予定であります。「研究の仕方がわからない」、「学会前に予演会をしてほしい」など様々な疑問やご希望に、研究経験豊富なメンバーがお答え致します。



市立秋田総合病院
岩倉 正浩

各研究会の活動に興味のある方はぜひお気軽にご連絡ください

神経系 akita.neuro.pt@gmail.com

循環器 akita.circ.pt@gmail.com

運動器 akitamptg@gmail.com

老年期 akita.geriatric.pt@gmail.com

呼吸 akita.respi.pt@gmail.com

参加希望、質問等随時受け付けております

開催予定研究会

日付	研究会名・開催地	参加費
2017.4.22	運動器理学療法研究会(秋田市を予定)	500円

研究会の開催予定についてもニュースにて報告していきますのでご確認ください

今回新設となる研究班の活動に先だって、すでに循環器領域では、秋田県の若手心リハPTが集まり勉強会を開催してきました。その模様を取材してきました。

秋田県循環器理学療法研究会 in 鷹巣



県北に心リハの礎を築くために - 循環器PTとしての課題と責務を果たす -



2月17日、北秋田市の鷹巣町にて、県北の病院、施設の理学療法士・作業療法士を対象とした「第3回秋田県循環器理学療法研究会 心臓の診かたーキホンのキー」が開催されました。秋田県循環器理学療法研究会は、心臓リハビリテーションを担当する理学療法士の有志が集まり結成した研究会で、これまでは学会の予演会や、トピックスレクチャーを通して、情報交換や勉強会を行ってきました。今回の開催は、心リハの施設基準を有する病院がない県北での開催を意識し、循環器患者を担当するときのリスク管理や介入の方策をレクチャーする勉強会でした。約30人の参加者が集まり、集中して講師の話に耳を傾けていました。会のメンバーは、開催に向けて県北の先生方と綿密に連絡を取り合い、どのような勉強会にしていくか、試行錯誤してきたそうです。それだけ

に、循環器に不慣れな参加者でも分かりやすい内容であったと感じました。

同会の会長である秋田県立脳血管研究センターの加賀屋勇氣さんは、「心リハの施設がない県北での開催に不安もありましたが、多くの先生方にお集まりいただき、県北の皆様の熱意を感じました。来年度からは、県士会の研究班に名を連ねて、再スタートします。これまでより多くの先生方とともに勉強できる機会が増えると思っています。心リハは地域格差が大きいのが現状です。秋田県のどこに住んでいても、同水準の心臓リハビリテーションが受けられるように、心リハのノウハウを上げていくことも循環器を専門とする私たちの課題であり責務と考えています。これを機に、県北でも定期的に研究会を開催していきたいです」と、今後の展望について語ってくださいました。



加賀屋 勇氣 先生



研究会の世話人の面々

勉強会というと、有名な先生をお招きして講演していただくのが一般的ですが、県内にも精力的に活動されている先生方がたくさんいます。秋田県の理学療法士だからこそ、実態をよく理解したお話が伺えると今回の研究会を通して感じました。循環器理学療法研究会の取材に行き、新年度から始まる各研究会の活動に、否が応でも期待が高まりました。

ぼくらの職場 紹介します!!

-Introduction of our team-

いつも転院申し送りしているけど、知っているようで知らないあの病院、あのリハ科… どんな理学療法士がどんなことしてるの?? そんな疑問に答えるべく、自分たちの病院・チームを紹介していくコーナーです!



第十回は「社会医療法人明和会大曲中通病院」です!

それでは大曲中通病院のみなさん! ご紹介をお願いします!

—はい! 高橋 和成が当院について紹介させていただきます!

〈私たちが働く病院は…〉

大曲中通病院は「社会医療法人明和会」に属し、昭和42年開設以降、「いつでも、どこでも、誰でも親切でよい医療」をモットーに地域における救急から予防、在宅医療まで中核病院としての役割を担っています。平成20年9月に新築移転し、「医療と介護の融合」をコンセプトに、より一層地域医への貢献を目指している病院です。

〈リハビリ対象疾患は…〉

脳卒中や進行性難病などの脳血管疾患、整形外科疾患、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患、また急性疾患等に伴う廃用症候群など多岐に亘る疾患を対象にリハビリテーションを提供しています。

〈理学療法士の人数は…〉

院内リハビリテーション係 PT 6名、OT 7名

通所リハビリテーション部門PT 3名 訪問リハビリテーション部門PT 3名、OT 1名

〈私たちの病院のここが“ウリ”です!〉

院内には一般病棟と療養病棟、ショートステイが設置されており、急性期から生活期まで幅広い病期に対応したリハビリテーションを提供しています。対象患者さん1人に対してセラピスト2~3人担当制を設けており、活発な意見交換や相談などによりその人にとって今必要な治療を行うようにしています。

また、褥瘡管理、嚥下、リハビリテーション栄養などの学習会も実施しており、そこから各関連職種を学び、個人の知識技術の向上・視野の拡大やスムーズな多職種連携を図っています。

別棟では通所リハビリテーション部門、訪問リハビリテーション部門も設置しており、介護保険分野にも力をいれています。通所リハビリは利用者本人が自ら動く事を主にして個別リハビリ・マシントレーニングなどを提供しています。訪問リハビリでは大仙市、美郷町、仙北市と広域の利用者さんに対応する事で在宅生活への支援を行っています。院内にあるショートステイにも週2回サービスでリハビリを提供し、廃用予防の一助となっています。入院当初から常に在宅生活をイメージしながら院内・通所・訪問の各部門で連携し、地域に根差したリハビリテーションを提供していくことを目標として日々業務にあたっています。



(病院紹介者: 高橋和成)

事務局報告

(平成29年2月8日)

1. 会員動向
正会員数582名、名誉会員数2名、休会者数32名)
賛助会員数8社
2. 公文書発行数 46件
3. ニュース、機関誌、印刷物等の受領
日本理学療法士協会資料等なし
他士会ニュース・広報誌7件
他士会印刷物1件
他団体印刷物12件

平成28年度第5回理事会議事録要約

1. 招集年月日 平成28年11月22日(火)
1. 開催場所 秋田大学医学部保健学科第1講義室(B棟1F)
1. 開催日時 平成28年12月14日(水) 16:30~(三役会議は15:30~)
1. 総理事数 12名
1. 出席者 理事:菅原、須藤、畠山、渡部、松橋、田安、若狭、初山、大場、柏木、ジョーンズ、井上)
班長:福原、佐藤、齊藤、渡邊、富田、小田嶋、伝農、川越、伊藤、山崎
監事:倉田、鈴木 顧問:工藤 議長 菅原慶勇
書記:大倉、岩倉(総務班)

【審議事項】

1. 平成29年度事業計画案について
2. 平成29年度予算案について
 - 1) 総務部(提案理事:渡部)
庶務班からは、各施設への配布物は1施設1部にする、メールで送信するなど印刷物にかかる予算の削減に努めると説明があった。審議の結果、全会一致で承認された。
 - 2) 財務部(提案理事:松橋)
資料に沿って説明があった。審議の結果、全会一致で承認された。
 - 3) 事業局(提案理事:畠山)
来年度から事業局内の班編成があり、旅費を増額計上していると説明があった。審議の結果、全会一致で承認された。
 - 4) 事業部(提案理事:田安)
障がい予防・スポーツ支援班から、来年度の新規事業として東北ろうあ者スポーツ大会と、秋田市管轄のねんりんピックのサポート活動を行うと説明があった。
調査活動班からは、来年度は対象者を一般の方とし、健康意識に関するアンケートを行う事、

アンケートは公開事業とねんりんピック、地域包括ケア公開講座の参加者に直接行うことに関して説明があった。

菅原会長より、今までに行った調査活動の結果の中で、長期的変化を調査し、報告してほしいと要望があった。

5) 研修部(提案理事:初山)

生涯学習班からは、新人教育プログラム統括班が生涯学習班に統合されることになったとの説明がなされた。鈴木監事から、新人教育プログラム統括班はなくなるという解釈でいいのか、予算案に新人教育プログラム統括班が記載されているのは大丈夫なのかと質問があった。これに対して畠山理事から、新人教育プログラム統括班は生涯学習班に統合されたこと、須藤理事から、予算書自体は問題ないことが説明された。

専門領域研究班からは、新人教育プログラム統括長を務めていた山崎班長に専門領域研究班長を務めてもらうと説明があった。下位組織として、神経、運動器、呼吸、循環器、老年期の5グループを設けること、各グループの活動はグループ長を中心とした年3回程度の勉強会、

研究を行う予定である旨の説明があった。畠山理事から、一人職場の会員増加がみられ、臨床、研究に関する相談の場、勉強の場を提供することがあるとの班創設の目的が説明された。

6) 広報部 (提案理事：若狭)

広報部ニュース班からは、理学療法ニュースの発行部数を会員全員分から各施設3部に変更した事に関して説明があった。これに対し、工藤顧問から広報は会員の関心を集めるために非常に重要であるため、部数に関しては削減した後の経過を注視するように要望があった。若狭理事からは、理学療法ニュースは紙媒体で各施設へ3部発送し、メール会員へはPDFファイルでの送信を行い、また、ホームページ上にも掲示しているため、削減の影響は最小限に抑えられるのではないかと返答があった。

ホームページ班では、菅原会長から、会員数が増えてきたためホームページの頻回な更新を指示された。また、ホームページ上で県土会の活動内容をすべて把握できるようにしていきたいとの意向が説明され、今後の検討課題となった。

7) 北部ブロック活動部 (提案理事：柏木)

資料に沿って説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

8) 中央ブロック活動部(提案理事：ジョーンズ)

中央地域リハ推進班からは、班長は男鹿みなと市民病院の花田定晴先生に快諾を得ていること、これまでの訪問リハ支援班を吸収合併し訪問リハネットワークを介して地域リハビリテーション推進活動への支援を行うことに関して説明があった。

9) 南部ブロック活動部 (提案理事：井上)

資料に沿って説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

10) 委員会担当 (提案理事：大場)

地域包括ケアシステム推進委員会からは、第3回地域包括ケア公開講座を平成29年11月3日に「アルヴェ1Fきらめき広場」にて実施することが決定したと報告があった。

3. 事業局班名変更案について (提案理事：畠山)

畠山理事から事業局班名変更案に関して提案があった。審議の結果、「地域包括ケア班」の名称を「地域理学療法推進班」と変更することとなった。

4. 理学療法週間事業のイベント用品作成の承認について (提案理事：田安)

田安理事より、理学療法週間事業のイベント用品作成の承認について資料に沿って提案があった。審議の結果、イベント用品としてビブスを作成すること、作成費用は協会からの理学療法週間イベント用品作成補助金を充て、不足分は県土会予算を充てること、色とロゴは田安理事を中心に検討することが承認された。

5. 第23回秋田県理学療法士学会学会長の選任の件 (提案理事：大場)

第23回秋田県理学療法士学会学会長として、秋田県リハビリテーション学院の初山日出樹先生を推薦すること、学会テーマを「集中治療における早期リハビリテーションー重症患者の長期的予後を見据えて理学療法士ができることー」とする予定であると報告があった。審議の結果、全会一致で承認された。

6. 特別委員会災害医療派遣検討委員会設置の件及び委員長選任に関する件 (提案理事：大場)

特別委員会災害医療派遣検討委員会設置に関し、委員長は中通総合病院の成田研氏とし、今後は人員増加を目指して士会員のベーシック研修会受講を勧めることとなった。

7. 平成28年度協会賞受賞候補者推薦の件 (提案理事：大場)

大場理事より、平成28年度協会賞受賞候補者推薦に関し、当会として功労分野に市立秋田総合病院の高橋仁美先生を答申するとの説明がなされ、審議の結果、全会一致で承認された。

8. 個人番号 (マイナンバー) の取り扱いについて (提案理事：松橋)

個人番号の取り扱いについて、資料に沿って報告がなされた。審議の結果、運用上のルールを設けることで決定し承認された。

9. 秋田市介護認定審査委員の推薦について (提案理事：須藤)

秋田市介護認定審査委員の現委員の任期が満了となることから次期委員の選出が必要なことが資料に沿って説明があった。審議の結果、次期委員として、以下の5名を推薦することとなった。

山平齊氏 (秋田赤十字病院)

大場みゆき氏 (中通総合病院)

山内康子氏 (中通リハ病院)

畠山和利氏 (秋田大学医学部附属病院)

伊藤雄平氏（秋田厚生医療センター）

10. その他

【協会・ブロック・リハ専門職協議会からの審議報告事項】

1. 組織運営協議会報告（報告理事：菅原）
資料に沿って報告があった。
2. 2016年度災害医療関係団体合同会議について（報告理事：菅原）
資料に沿って報告がなされた。当会が同会議に参加および活動するにあたって、災害医療派遣検討委員会を設置することの重要性についても説明された。
3. 東北ブロック協議会理事会報告（報告理事：須藤）
資料に沿って報告があった。その中で、平成29年4月1日付けで東北ブロック協議会会長が岩手県士会の桜田義樹会長に交代すること、副会長は山形県士会の高橋俊章会長、事務局は岩手県士会に設置されることが報告された。
4. 東北ブロック協議会学術局会議報告（報告理事：畠山）
資料に沿って報告があった。
5. 秋田県リハ専門職協議会報告（報告理事：須藤）
秋田県への事業提案については当会の各ブロック地域推進班が母体となって遂行していく予定であること、事業の遂行費用は各士会からの拠出金によって賄われるため、来年度予算に組み込んであることも予算案に沿って説明があった。
6. 会費前納制について（報告理事：須藤）
会費未納者への対応に関しては、協会から会費未納の催促は6/30までとなり、それまでに納入しなければ7/15に4/1付の強制退会になることが説明された。当会は、会費未納期間中（会員権利停止中）の研修会受講ポイントの付与は行いが、7/15以降で退会となった後にはポイントを一切付与しない方針とすると説明があった。当会は全面賛成の方針とし、来年以降は会員へ会費納入の周知を更に徹底することとなった。
7. 介護予防・健康増進事業の推進に係る都道府県コーディネーターの推薦について（報告理事：須藤）
当会では都道府県コーディネーターとして所属施設長からの了承が得られれば、柏木理事、井上

理事を推薦することが承認された。また、了解が得られない場合には、川越厚良氏（市立秋田総合病院）と山崎貞一郎氏（中通総合病院）を推薦可能かどうか確認することとなった。

8. 次年度の新人教育プログラム臨床見学受入施設制度について（報告理事：須藤）
当士会としては現在も申請をしている施設ではそれを継続すること、メール会員にも周知をし、可能な施設では積極的に申請をしていく方向性をとることとなった。

【業務執行報告】

1. 会長
平成28年度環境保健事業功労者表彰式において当会の工藤俊輔氏、願法廣典氏、小松しのぶ氏の3名が表彰されたことが報告された。
2. 各局・部（班）報告
各部局において、資料に沿って報告がなされた。
 - A. 事務局
 - 1) 総務部（総務、庶務）
10月31日現在会員権利停止が1名いることが報告された。
 - B. 事業局
畠山事業局長より、平成29年度秋田県計画に係る事業の提案募集に2件の研修会を事業申請した旨が報告された。
 - 1) 事業部
来年度の理学療法週間公開講座は日本理学療法士協会の依頼に沿って7月9日に開催予定であり、場所はアルヴェで検討している旨が報告された。
 - 5) 中央ブロック活動部報告
新人教育プログラム班会議において来年度のおおよその予定を立てていたが、体制が変更されるのに伴い再度計画を立てる旨が説明された。
- C. その他
 1. 平成28年度第6回理事会
日時：平成29年2月22日（水）
18：00（三役会議 17：30）
会場：秋田大学医学部保健学科日常生活活動実習室（B棟3F）

マイブーム

秋田厚生医療センター
小原 一葉

高橋先生、バトンを回して頂きありがとうございます。先月号の文学雑誌かのような文面から一転、駄文となりますがお付き合い下さい。

私のマイブームはバドミントンです。大学時代にバドミントン部に入部し、テクニシャンな魔球やワクワクする交流戦、そして紙面には残せないような素晴らしい飲み会の数々を通して、バドミントンという競技に恋をしました。大学卒業後は偶に部活に顔を出す程度でしたが、去年の年明けから知り合いの伝手で社会人のバドミントンサークルに参加させて頂けるようになり、恋をしたバドミントンに再会。今となってはバドミントンをしてラーメンを食べる「バドラー部」なるサークルの運営側の一人となり、バドミントン漬けの日々を送っております。このバドラー部の原型は実は全員PTで、県立体育館でバドミントンし、体育館近くの某ラーメン屋で会員カードを提示しながら無料トッピング付きのラーメンを食し、そしてスタバで英文（論文）抄読会等を試みるという謎の集団でした。しかし人数の肥大化と他職種のメンバーの加入、各々の都合により、最近は…というよりも、今ではこの集まりはめっきりなくなってしまいました。もはや思い出です。そしてバドミントンとラーメンだけが残り、バドラー部は現在も活動しております。バドラー部なのにびっくりドンキーに行った時はびっくりドキッとしましたが、皆でラウンドワンに行ったりバーベキューキャンプに行ったりと、随分と楽しい集団になりました。活動日は不定期でありまして、平

日業務後や休日に活動することになれば、2週間全く活動しないこともあります。しかし気付けば発足から半年以上経ち、知り合いが増え、飲み屋も何件か覚え、社会人になっても交流の輪が広がっていくのはバドミントンのお陰であり、スポーツの力は本当にすごいな～と思っています。最近では大会にも積極的に参加するようになりました。中々試合では勝てないのが実情ではありますが、まずはこのマイブームを長く続けていこうと思います。今年の目標はチームメイトのコンディション調整に関わり、トレーナー兼プレイヤーとして大会での勝ち星を得ることです。そして10年後もマイブームです、と紹介できたらいいなと密かに思っています。

次のマイブームは昨年度秋田厚生医療センターで大変お世話になりした、北秋田市民病院の嶋田誠司先生にお願いしたいと思います。お忙しいところ申しわけありませんが、よろしく願い致します。



ニュース編集班より

ニュース編集班班長の加賀屋です。今号のニュースはいかがだったでしょうか？ニュースへのご意見・ご指導など下記連絡先までお寄せいただくと幸いです。

次回ニュースの原稿締め切りは4月24日（月）です。載せたいニュース、写真などありましたら、ニュース編集班までお寄せください。

「マイブーム」を依頼された北秋田市民病院の嶋田誠司先生も、この期日までにご自身の写真つきの原稿を送付して下さるようお願いいたします。(1,000~1,500字程度)

連絡・送付先：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

問い合わせ先：秋田県立脳血管研究センター 機能訓練部 加賀屋勇氣

Tel : 018-833-0115 Fax : 018-833-2104 E-mail : kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園

秋田リハビリテーション学院

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校



平成27年4月開校
秋田県初!
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員

〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します! 医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●厨房設備機械 ●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33

〒010-0964 秋田市八橋巖沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)

FAX 0187-66-2139

☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 佐藤 俊介

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546

本荘営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313

能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

生体現象測定装置・FES（機能的電気刺激）
リハビリテーション機器 販売

有限会社 バイオテック

代表取締役 飯塚 清美

〒010-0041 秋田市広面字碓80-1

TEL 018-837-0161

FAX 018-837-0162

高度管理医療機器販売業 第04-000026号

有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621

秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5

TEL / FAX 018-882-2116

TEIJIN

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)NAC(TB)1201

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

厚生労働省指定工場

社団法人日本義肢協会登録・東北101号

(株)千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木 雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22
TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126